

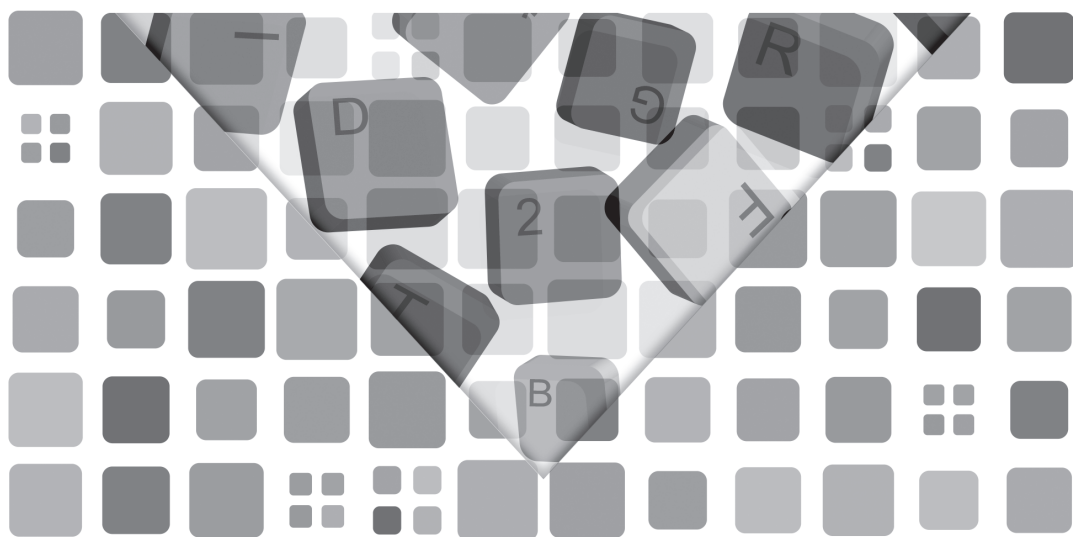
ステップ30

留学生のための

タイピング練習

ワークブック

Windows 10版



Step 01 タイピングの基本 6

- 1.1 キーと指の対応
- 1.2 ホームポジションについて
- 1.3 タッチタイピングの利点

Step 02 タイピング練習の準備 11

- 2.1 入力モードの確認
- 2.2 大文字/小文字の確認
- 2.3 タイピング練習ツールの利用方法
- 2.4 「メモ帳」でタイピング練習を行う

Step 03 中段の練習 17

- 3.1 中段(右手)の練習
- 3.2 中段(左手)の練習

Step 04 上段の練習 21

- 4.1 上段(右手)の練習
- 4.2 上段(左手)の練習

Step 05 下段の練習 25

- 5.1 下段(右手)の練習
- 5.2 下段(左手)の練習

Step 06 アルファベットの入力練習 29

- 6.1 アルファベットの重要性

Step 07 [スペース]キーと[Enter]キー 32

- 7.1 [スペース]キーと[Enter]キーのタイピング
- 7.2 問題表示だけのタイピング練習ツール

Step 08 記号キーの練習 37

- 8.1 右手の小指で押す記号キー

Step 09	ローマ字入力の練習 - 1	39
	9.1 全角入力モードの選択	
	9.2 「あいうえお」の練習	
Step 10	ローマ字入力の練習 - 2	42
	10.1 「か行」「な行」「は行」「ま行」「や行」の練習	
Step 11	Step 11 ローマ字入力の練習 - 3	45
	11.1 「さ行」「た行」「ら行」「わ行」の練習	
Step 12	Step 12 ローマ字入力の練習 - 4	47
	12.1 濁音、半濁音の練習	
Step 13	Step 13 ローマ字入力の練習 - 5	49
	13.1 「ん」の入力	
	13.2 小さい「っ」の入力	
Step 14	Step 14 ローマ字入力の練習 - 6	52
	14.1 小さい「や」「ゆ」「よ」の入力	
	14.2 小さい「あ」「い」「う」「え」「お」の入力	
	14.3 少し特殊なローマ字入力	
Step 15	Step 15 日本語で使う記号の練習	56
	15.1 「一」(長音)の入力	
	15.2 「、」「。」(句読点)の入力	
	15.3 カッコの入力	
Step 16	Step 16 漢字変換の練習 - 1	60
	16.1 漢字変換の手順	

Step 17 かんじ へんかん れんしゅう 漢字変換の練習 - 2 65

- 17.1 ぶんせつ せんたく かんじ へんかん しゅうせい 文節の選択と漢字変換の修正
- 17.2 ぶんせつ くぎ へんろう 文節の区切りの変更
- 17.3 かんじ へんかん おこな スムーズに漢字変換を行うコツ

Step 18 かんじ へんかん れんしゅう 漢字変換の練習 - 3 69

えんしゅう
(演習のみ)

Step 19 すうじ れんしゅう 数字キーの練習 72

- 19.1 すうじ ほうほう 数字キーのタイピング方法
- 19.2 すうじ へんかん 数字の変換

Step 20 れんしゅう テンキーの練習 76

- 20.1 テンキーのホームポジション
- 20.2 かく ゆび たいおう 各キーと指の対応
- 20.3 ぜんかくにゆうりよく 全角入力モードにおけるテンキー

Step 21 そうさ ひつよう にゆうりよく [Shift] キーの操作が必要な入力 80

- 21.1 そうさ ひつよう もじ [Shift] キーの操作が必要な文字
- 21.2 そうさ ひつよう [Shift] キーのタイピング方法
- 21.3 きごう へんかん 記号の変換
- 21.4 つか おお もじ にゆうりよく [Shift] キーを使った大文字の入力

Step 22 ま ぶんしよく アルファベットが混じった文章 85

- 22.1 ぜんかく はんかく き か 全角と半角の切り替え
- 22.2 りよく [Caps Lock] キーの利用
- 22.3 りよく [Shift] キーを利用する

Step 23 かつよう ファンクションキーの活用 88

- 23.1 ぜんかくえいすうへんかん はんかくえいすうへんかん 全角英数変換 (F9) / 半角英数変換 (F10)
- 23.2 へんかん へんかん ひらがな変換 (F6) / カタカナ変換 (F7)

Step **24** ぶんしやうにゆうりよく れんしゆう
文章入力の練習 92
(えんしゆう
演習のみ)

Step **25** やじるし かつよう
矢印キーの活用 95

- 25.1 [矢印] キーを使ったカーソルの移動
25.2 [Shift] + [矢印] キーで文字を選択する

Step **26** コピーと貼り付け 97

- 26.1 [Ctrl] + [C] と [Ctrl] + [V]
26.2 [Ctrl] + [X]

Step **27** べんり
便利なショートカットキー 100

- 27.1 ショートカットキーのタイピング方法
27.2 覚えておくと便利なショートカットキー

Step **28** よそくにゆうりよく かつよう
予測入力の活用 102

- 28.1 予測入力の使い方
28.2 予測入力の設定
28.3 郵便番号から住所を入力

Step **29** じしよ かつよう
辞書ツールの活用 105

- 29.1 辞書に単語を登録する
29.2 「短縮よみ」で文章を素早く入力

Step **30** IMEパッドの活用 109

- 30.1 「手書き」で漢字を入力
30.2 「部首」や「画数」で検索して漢字を入力

◆ タイピング練習ツールのURL

http://-----

タイピングの^{きほん}基本

タイピング技術を上達させるには、タイピングの基本を学んでおく必要があります。いつまでも自己流のタイピングを続けるのではなく、キーボードを見ないで入力する「タッチタイピング」を習得できるように、タイピングの基本から学習していきましょう。

1.1 キーと^{ゆび}指の^{たいおう}対応

タッチタイピングができない人は、「キー」と「指」の対応がバラバラになっているようです。すべてのキーを「人差し指」だけで押す人もいれば、やたらと「人差し指」と「中指」が活躍する自己流タイピングをしている人も多いようです。

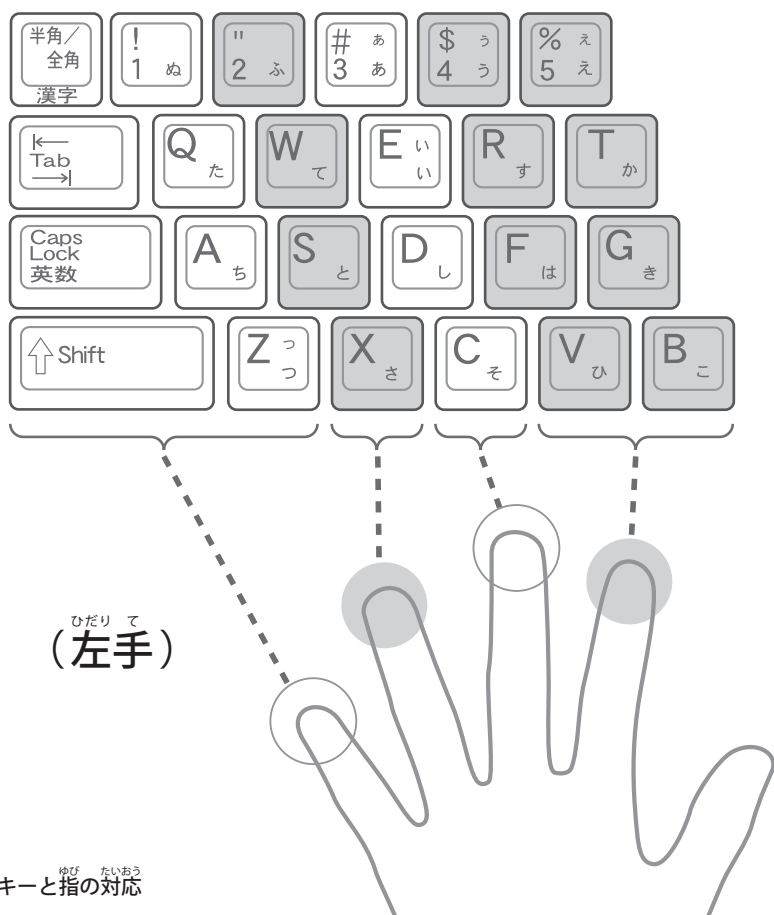


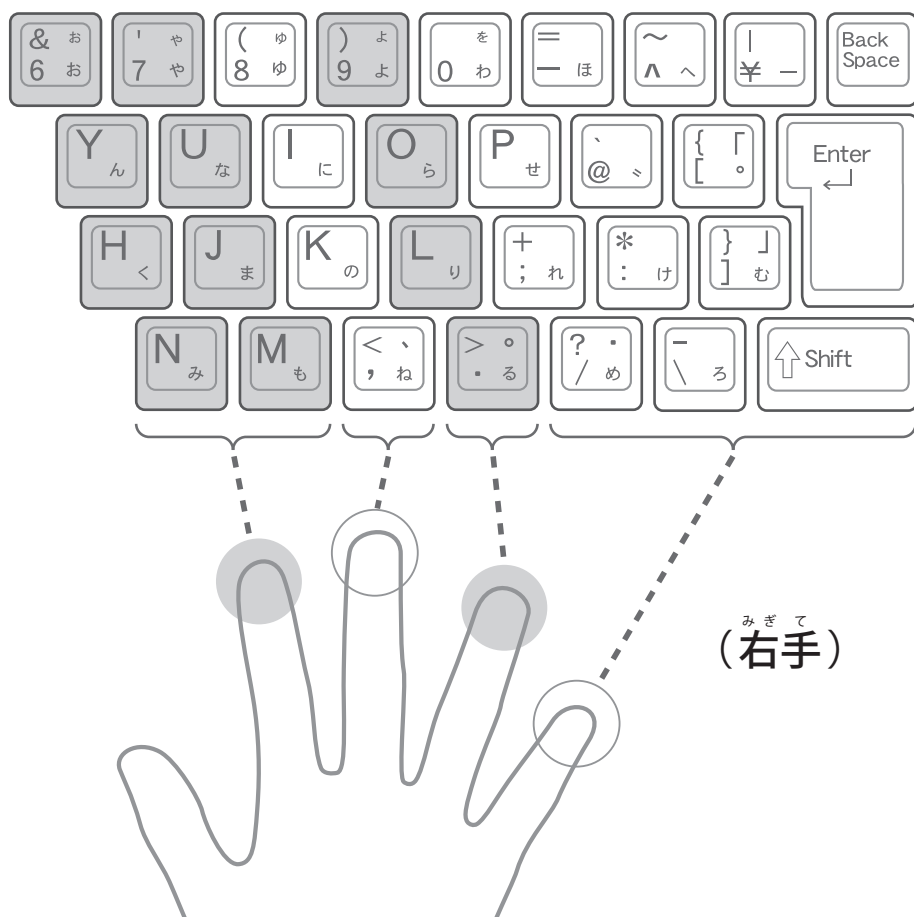
図1-1 キーと^{ゆび}指の^{たいおう}対応

このような状態では、ある程度のタイピング速度にはなるものの、すぐに限界に達してしまいます。「高速なタッチタイピングには到底およばない……」というのが実情でしょう。

その場限りで適当にキーを押しているようでは、タッチタイピングを実現できません。キーボードを見なくても「どの位置にどのキーがあるのか？」を把握しておく必要があります。そのためにはキーと指の対応を覚えなければなりません。

タイピングは左右10本の指を使って行うのが基本です。また、各キーを押す指はいつも同じでなければいけません。その対応を示したのが以下のイラストです。このイラストに従うと、[A]キーを押すのは必ず「左手の小指」になります。同様に、[B]キーは「左手の人差し指」、[K]キーは「右手の中指」になります。このように「キーと指の対応」を決めることが、タッチタイピングを実現するための第一歩となります。

なお、以下のイラストでは「親指」に対応するキーが省略されていますが、通常、親指は[スペース]キーを押す指になります。

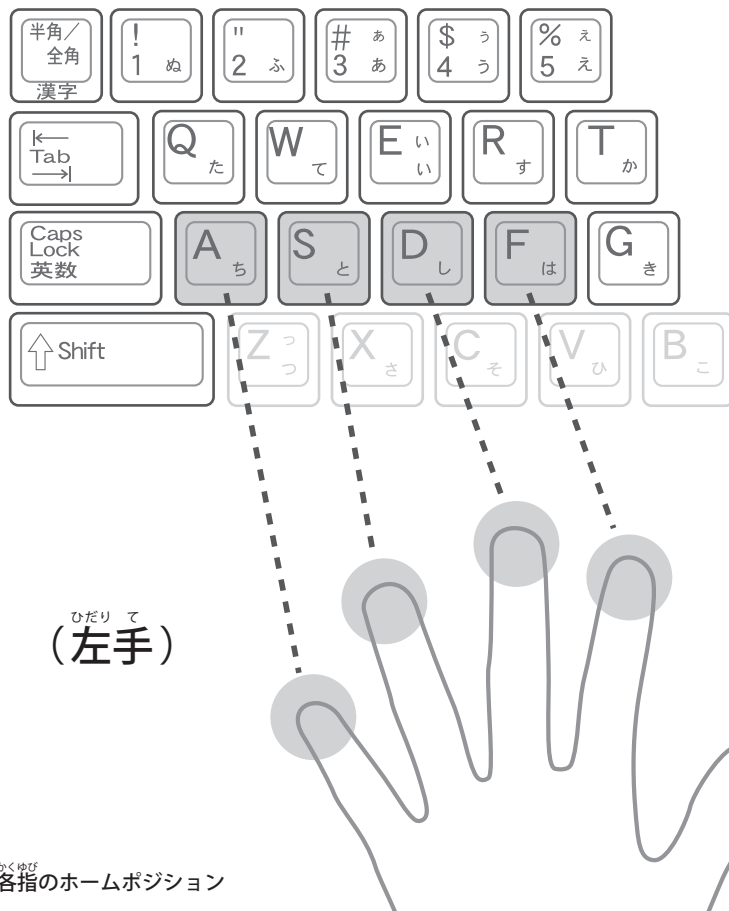


1.2 ホームポジションについて

タッチタイピングを実現するにあたり、もうひとつ大切なことがあります。それはホームポジションの位置を覚えることです。ホームポジションにあたるキーは、[A] [S] [D] [F] キーと [J] [K] [L] [;] キーの8つです。これらのキーの上に「人差し指」から「小指」の8本を自然に乗せるのがタイピングの基本姿勢となります。

このホームポジションを基点とし、各キーの位置を相対的に把握することで、キーボードを見ないタイピングを行います。たとえば、[J] キーを押すときは、そのまま「右手の人差し指」でキーを押します。[U] キーを押すときは「右手の人差し指」を少し左上にずらして押します。同様に、[X] キーを押すときは「左手の薬指」を少し右下にずらして押します。

このように、それぞれの指はホームポジションの位置から「左上」または「右下」の方向に動かすのが基本です。キーを押した後、必ずホームポジションに指を戻すことも重要なポイントとなります。あとは、各キーの配置をできるだけ早く覚えてしまうこと。頭で配置を丸暗記するのではなく、実際に練習しながら自然に「キーの位置」と「指の対応」を覚えていくとよいでしょう。



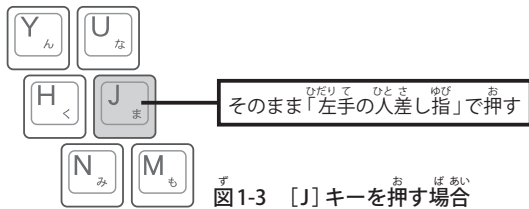


図1-3 [J] キーを押す場合

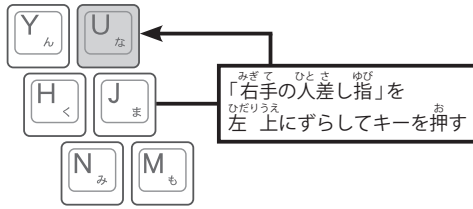


図1-4 [U] キーを押す場合

「右手の人差し指」を少し左上にずらしてキーを押し、その後[J]キー（ホームポジション）に指を戻す。

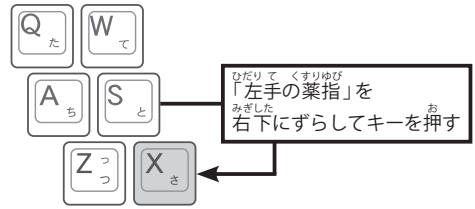
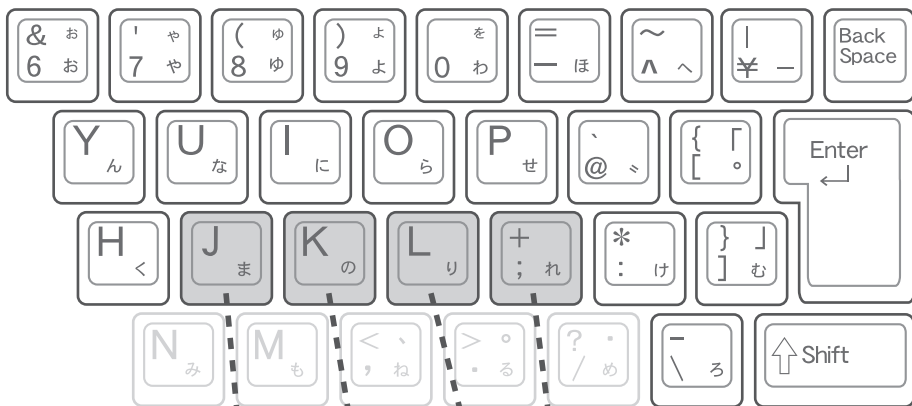


図1-5 [X] キーを押す場合

「左手の薬指」を少し右下にずらしてキーを押し、その後[S]キー（ホームポジション）に指を戻す。



みぎて
(右手)

1.3 タッチタイピングの利点

タッチタイピングには、「キー入力を速くすること」以外にも利点があります。それはパソコンに向かう姿勢が良くなることです。タッチタイピングを行うには、常にホームポジションに指を置き、スムーズに指を動かさなければなりません。そのための必要条件となるのが「姿勢を直すこと」です。むしろ、タッチタイピングを行っているとき、自然に背筋が伸びて正しい姿勢になる、という方が適切かもしれません。

もうひとつの利点は目が疲れにくくなることです。タッチタイピングができない人は、画面とキーボードの両方を交互に見なければならぬため、どうしても目の動きが大きくなってしまいます。そのぶん、目のピント調整も頻繁になります。つまり、それだけ目の筋肉を酷使していることになります。一方、タッチタイピングは画面（モニタ）だけを見て作業を進められるため、視線の動きが小さくなり、目が疲れにくくなります。

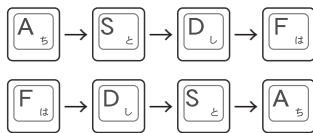
演習

演習

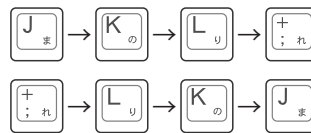
それでは、実際に「タイピングの基本」を練習してみましょう。ここではホームポジションの位置と指の動きを確認します。現時点では、パソコンの電源を入れる必要はありません。誤動作を防ぐためにも電源OFFの状態ですぐに擬似的なキー入力を行うようにしてください。

- (1) ホームポジションに指を置き、各キーを以下の順番で押してみましょう。

ひだりて
(左手)

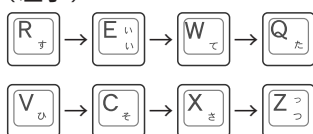


みぎて
(右手)

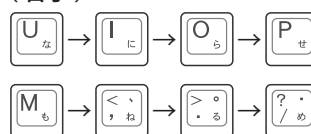


- (2) ホームポジションの位置から以下のキーを押してみましょう。キーを押したあとは、必ず指を元の位置（ホームポジション）に戻します。

ひだりて
(左手)



みぎて
(右手)

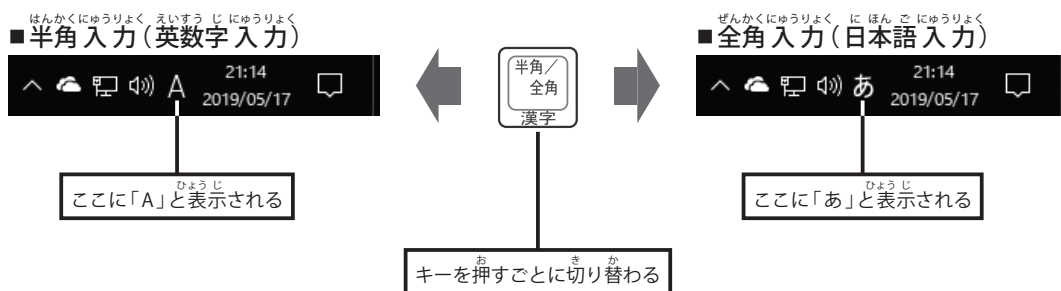


タイピング練習の準備

ステップ01では、パソコンの電源をOFFにした状態でタイピングの練習を行いました。しかし、これでは面白みに欠けます。そこで、このステップでは「タイピング練習ツール」の利用方法と、「メモ帳」でタイピング練習を行う方法を解説します。

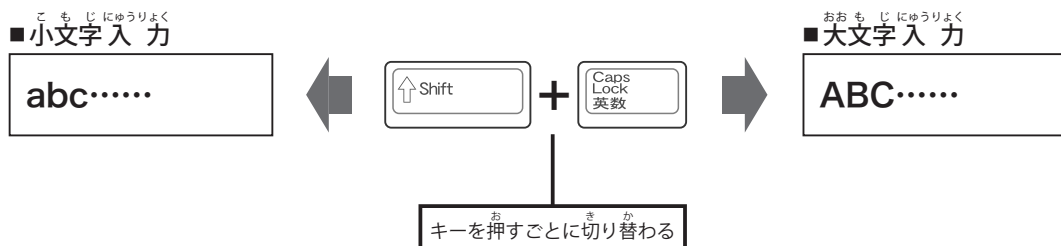
2.1 入力モードの確認

タイピング練習を行うときは、はじめに入力モードを確認しておく必要があります。入力モードの切り替えは[半角/全角]キーで行います。現在の入力モードは、画面右下にあるタスクバーを見ると確認できます。



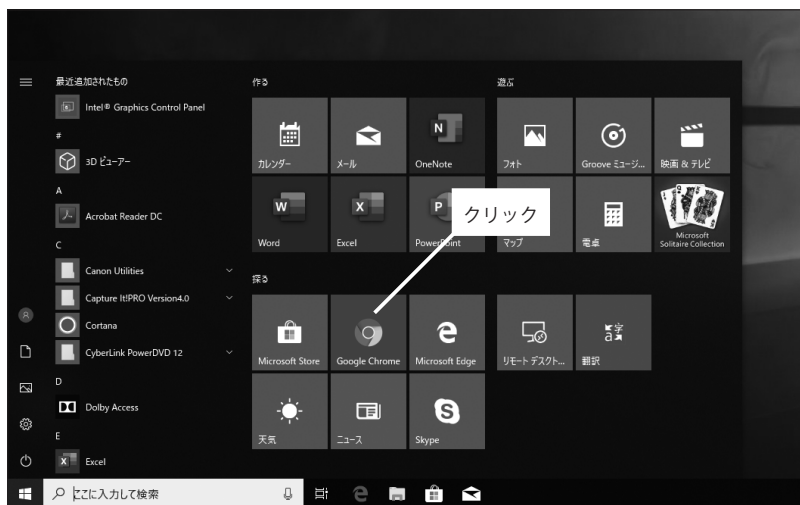
2.2 大文字/小文字の確認

アルファベットを入力するときは、大文字/小文字の入力モードにも注意しなければいけません。通常、Windowsではアルファベットが小文字で入力されます。[Shift]キーを押しながら[Caps Lock]キーを押すと、これを大文字入力に変更できます。再度[Shift] + [CapsLock]キーを押すと、元の小文字入力に戻ります。

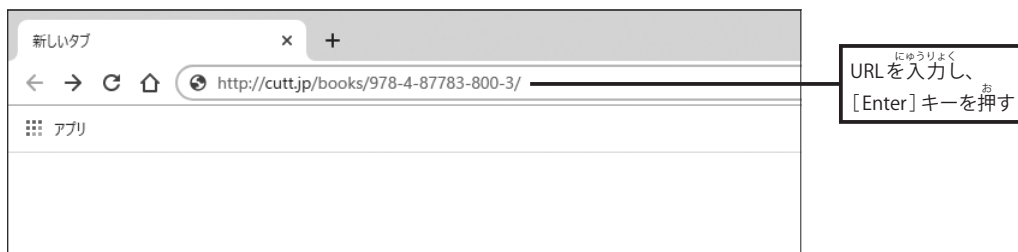


2.3 タイピング練習ツールの利用方法

本書では、インターネット上に用意したタイピング練習ツールを使ってタイピングの練習を行います。このツールの利用手順は以下のとおりです。



1 スタートメニューなどからWebブラウザを起動します。



2 アドレスバーに「<http://cutt.jp/books/978-4-87783-800-3/>」と入力し、[Enter]キーを押します。

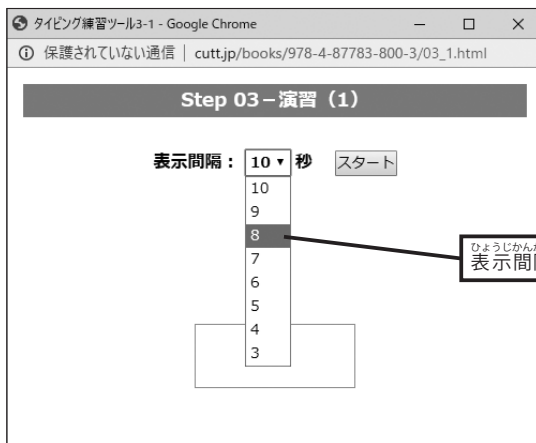
ワンポイント

ブックマークの活用

そのつどURLを入力するのは面倒なので、この時点でWebページをブックマークなどに登録しておくといでしょう。次回以降は、ブックマークから「タイピング練習ツール」を選択するだけで、手順3の画面を表示できるようになります。



3 タイピング練習ツールのメニュー画面が表示されます。この画面で練習する演習問題をクリックすると、タイピング練習ツールを起動できます。



4 新しいウィンドウが開き、タイピング練習ツールが表示されます。最初に、問題を表示する間隔を選択します。



5 [スタート]ボタンを押すと「3、2、1」とカウントダウンが始まるので、この間に指をホームポジションに置きます。

6

あとは、表示された問題のとおり文字を入力していただけます。手順4で選択した秒数が経つと、「○正解」または「×間違い」と表示されます。

■ 正しく入力できた場合



■ 間違って入力した場合



終了する場合

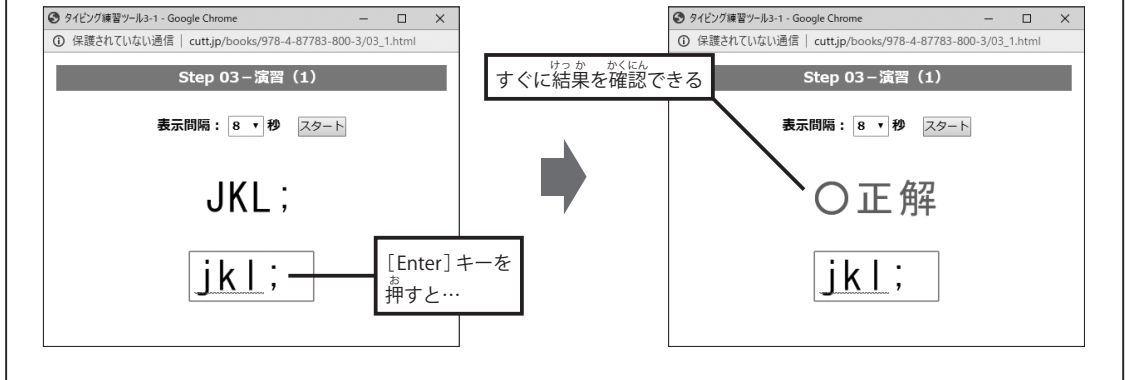
7

続いて、次の問題が表示されるので、同様にタイピング練習を続けていきます。練習を終了するときは【×】をクリックしてウィンドウを閉じます。

ワンポイント

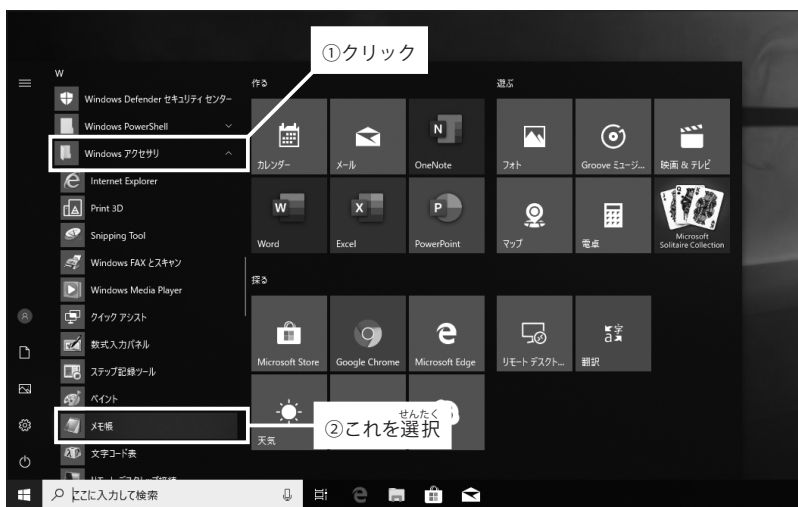
結果をすぐに確認するには？

問題の表示間隔は、それぞれの演習ごとに選択できます。はじめのうちは表示間隔を長めに設定し、慣れてきたら次第に表示間隔を短くしていくとよいでしょう。指定した秒数が経過する前に「○正解」または「×間違い」を確認することも可能です。この場合は、文字を入力した後に[Enter]キーを押します。

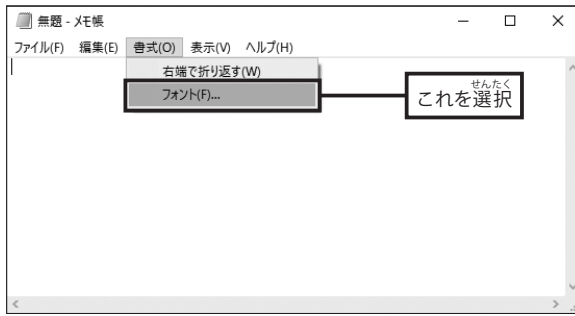


2.4 「メモ帳」でタイピング練習を行う

より実践的な練習を行いたい場合は、Windowsに付属する「メモ帳」などを使います。「メモ帳」でタイピング練習を行うときは以下のように操作します。

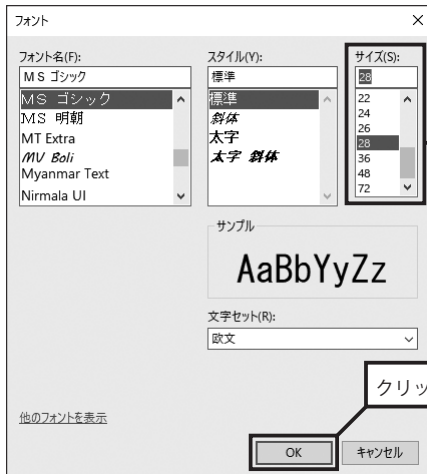


- 1 スタートメニューを開き、「Windows アクセサリ」→「メモ帳」を選択します。



2

「メモ帳」が起動します。初期設定のままでは文字が小さくて見にくいので、[書式]－[フォント]を選択し、文字サイズを変更しておきましょう。

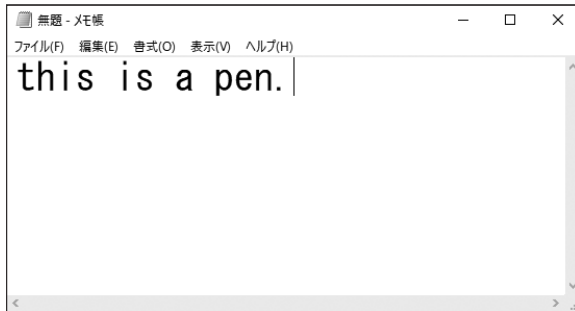


3

「サイズ」の項目で28前後の数値を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

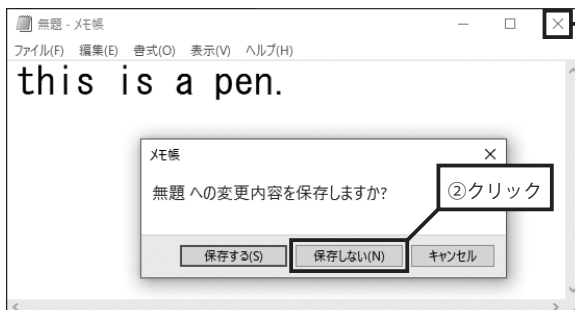
文字サイズを選択

クリック



4

これで文字サイズを変更できました。あとは、実際にキーを押してタイピングの練習を行ってください。



①クリック

5

練習を終えるときは[×]をクリックします。その後、[保存しない]ボタンをクリックして「メモ帳」を終了します。